

令和元年度 公共事業再評価調書

(区分) 国補・県単

1. 事業説明シート

事業名	中山間地域総合整備事業（国補）		事業箇所	上野原市 秋山 他	地区名	上野原南部	事業主体	山 梨 県
	当初計画	現計画	変更計画		(2) 評価項目【事業を巡る社会経済情勢等の変化】 (今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)			
計画期間	H22~H27	H22~R1	H22~R2		①地域・住民の意向状況 森林、原野に囲まれた地域が多く動物により農地が荒らされる被害が増加していることから、地元において早期の鳥獣害防止施設の完成が望まれている。 営農飲雑用水は農繁期には営農用水と生活用水として利用されることから、地域全体が水不足となるため、農繁期に安定的な用水が確保ができるよう、早期の整備が望まれている。			
総事業費	1,500百万円	1,930百万円	2,125百万円		②産業・経済情勢 なし			
(1) 事業の概要								
①事業目的及び効果 本地区は神奈川県との県境に位置する中山間地域であり、その殆どが急傾斜地域で営農条件が厳しい状況である中、水稲、葉物野菜などを中心に農業が営まれているが、近年は農業従事者の高齢化や後継者不足、鳥獣被害の増加などにより、耕作放棄地が増加してきているなどの問題を抱えていた。 また、農道の狭隘や農業用排水路の老朽化が著しいことから、農業生産基盤の整備により営農条件の環境を整えることで、市内にある農産物直売施設との連携を強化するとともに、営農飲雑用水の整備により生活環境を改善することで、地域活力の向上を図る。  □主要目標 ○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 ・農業所得増加額 1,219千円/ha $\geq$ 1,203千円/ha※ ・生活環境施設受益者数 610人/箇所 $\geq$ 241人/箇所※ (※評価基準値)  □副次目標 ○農業用排水能力の向上 ○鳥獣被害の軽減  □副次効果 ○遊休農地の解消								
②事業概要								
		現計画		変更計画				
	農業用排水路	L= 1,203m	→	L= 1,203m				
	農道	L= 935m	→	L= 935m				
	鳥獣害防止施設	L=23,530m	→	L=25,730m				
	営農飲雑用水施設	3箇所	→	3箇所				
③全体計画								
		平成30年度まで	令和元年度(評価実施年度)	令和2年度以降				
現計画	工事内容	農業用排水路 L=1,203m 農道整備 L=835m 鳥獣害防止施設 L=21,730m 営農飲雑用水 3箇所	農道整備 L=100m 鳥獣害防止施設 L=1,800m					
	事業費	1,865 百万円	65 百万円					
変更計画	工事内容	農業用排水路 L=1,203m 農道整備 L=835m 鳥獣害防止施設 L=21,730m 営農飲雑用水 3箇所	農道整備 L=100m 鳥獣害防止施設 L=1,800m	鳥獣害防止施設 L=2,200m 営農飲雑用水管路 一式				
	事業費	1,865 百万円	65 百万円	195 百万円				
④特記事項 なし								
⑤これまでの評価状況（平成21年度事前評価） 本事業は、農業生産基盤の整備を実施し、農産物直売施設などと連携した生産活動を促進させるとともに、生活環境整備によって生活利便性向上および定住化も期待できる事業であることから、実施が妥当である。								
(3) 評価項目【評価時点の費用対効果分析】								
			項目	着手時	変更計画時点			
			総事業費	1,500 百万円	2,125 百万円			
			工期	H22 ~ H27		H22 ~ R2		
経済効率性	費用	評価基準年	H21		R1			
		費用	2,420 百万円	3,415 百万円				
		建設費	2,420 百万円	3,415 百万円				
	便益							
			生活用水確保効果	3,610 百万円	3,741 百万円			
			営農経費節減効果	2,060 百万円	2,060 百万円			
			その他※	710 百万円	818 百万円			
			840 百万円	863 百万円				
		B/C	1.5		1.1			
※その他は、作物生産効果、走行経費節減効果。 費用便益分析マニュアルにより算出 費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。								

2. 評価シート

<p>(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]</p> <p>①これまでの計画変更等の概要          営農飲雑用水施設において、再利用を予定していた既存の急速ろ過機が想定よりも老朽化が著しく再利用が不可能であったことから、改修する必要が生じたので事業費が増加した。          (平成26年度変更内容)          総事業費 当初 1,500百万円 → 変更 1,930百万円          事業量 当初 営農飲雑用水施設 配水池3箇所            変更 営農飲雑用水施設 配水池3箇所          (ろ過機3機の追加)</p> <p>②進捗率          別表のとおり</p> <p>③事業進捗が順調でない理由          営農飲雑用水施設の配水区域再編や鳥獣害防止柵の設置箇所の再検討に伴う地元関係者との調整に不測の日数を要している。</p> <p>④今後の事業執行上の問題点          なし</p> <p>⑤変更計画の進捗予定(期間)          残事業である鳥獣害防止施設および営農飲雑用水施設の整備を実施し、工期を1年延長し、令和2年度には完了見込みである。</p>	<p>⑥変更計画の変更内容(事業費)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>変更工種等</th> <th>事業費増減</th> <th>変更理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥獣害防止施設</td> <td>89百万円の増</td> <td>設置箇所について、近年の動物の行動範囲の変化や管理面について再検討した結果、延長増や門扉の追加が必要となったことによる工事費の増</td> </tr> <tr> <td>営農飲雑用水施設</td> <td>106百万円の増</td> <td>詳細調査の結果、安定的な用水の確保のため、配水区域の再編が必要となったことによる管路の延長増や管径変更による工事費の増</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>195百万円の増</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 評価項目 [環境負荷等への配慮]          なし</p> <p>(6) 評価項目 [コスト縮減の可能性]          なし</p> <p>(7) 評価項目 [代替案立案の可能性]          なし</p> <p>(8) 所管部の今後の方針 継続・<u>見直し継続</u>・その他( )          (理由)          安定的な用水の確保のために営農飲雑用水施設の整備が必要なことから、工期を延長し、令和2年度完了を目指す。</p>	変更工種等	事業費増減	変更理由	鳥獣害防止施設	89百万円の増	設置箇所について、近年の動物の行動範囲の変化や管理面について再検討した結果、延長増や門扉の追加が必要となったことによる工事費の増	営農飲雑用水施設	106百万円の増	詳細調査の結果、安定的な用水の確保のため、配水区域の再編が必要となったことによる管路の延長増や管径変更による工事費の増	合計	195百万円の増	
変更工種等	事業費増減	変更理由											
鳥獣害防止施設	89百万円の増	設置箇所について、近年の動物の行動範囲の変化や管理面について再検討した結果、延長増や門扉の追加が必要となったことによる工事費の増											
営農飲雑用水施設	106百万円の増	詳細調査の結果、安定的な用水の確保のため、配水区域の再編が必要となったことによる管路の延長増や管径変更による工事費の増											
合計	195百万円の増												

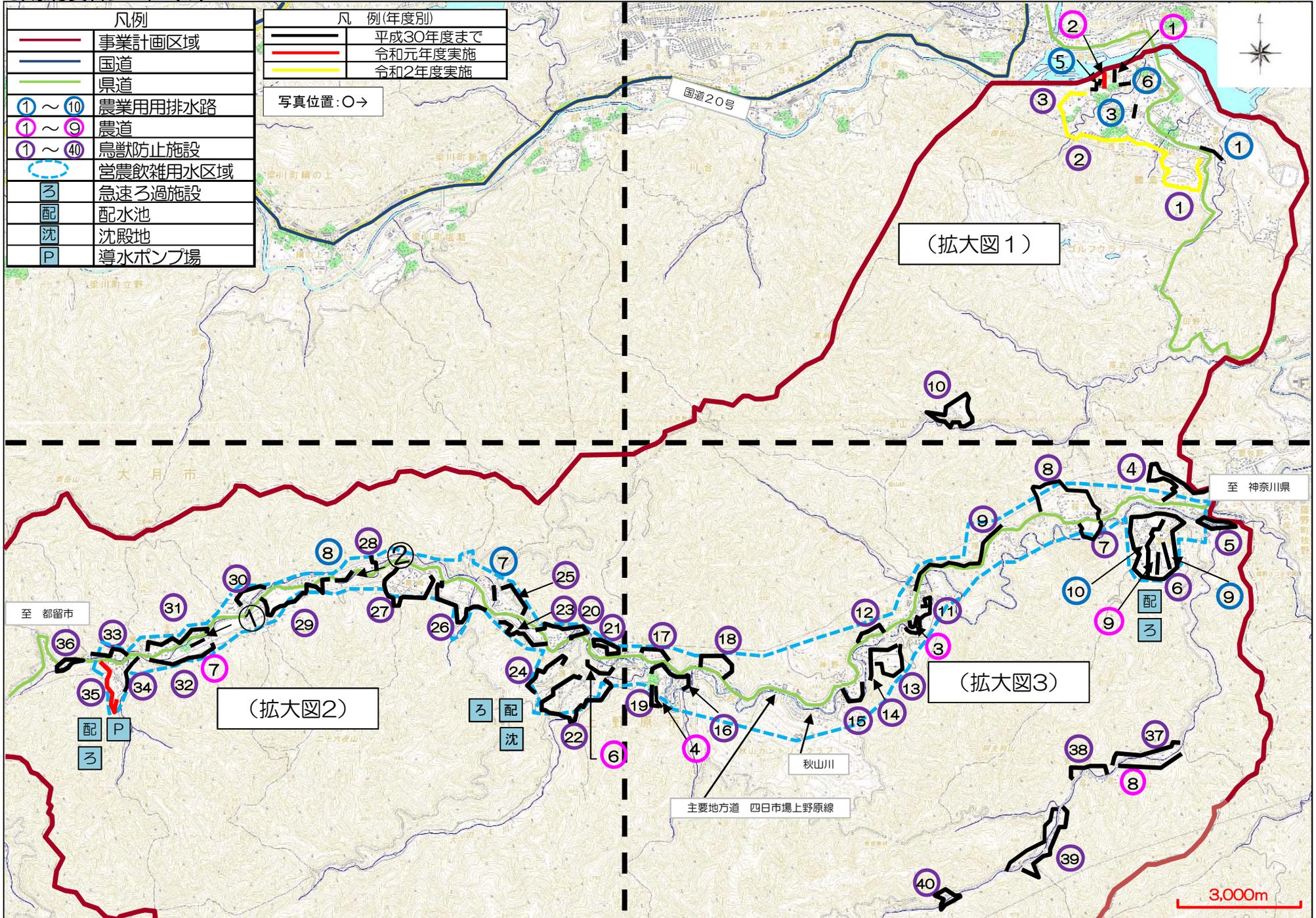
○別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100

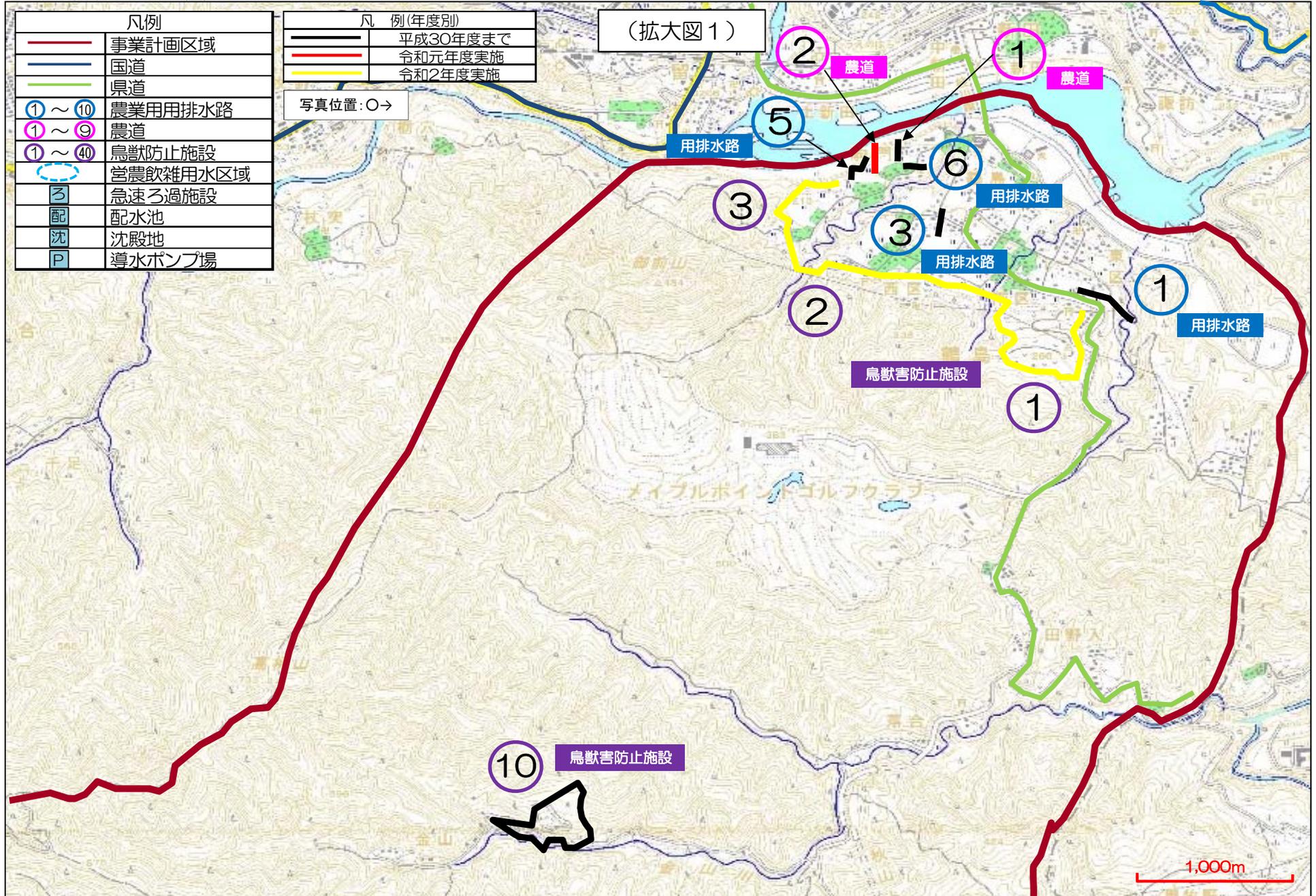
単位：%

年度		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
現	計画	9.0%	19.7%	49.0%	55.5%	66.8%	71.5%	76.4%	81.6%	96.6%	100.0%	
	実績	9.0%	19.7%	49.0%	55.5%	66.8%	71.5%	76.4%	81.6%	96.6%	100.0%	
変更計画											90.8%	100.0%

### 3. 添付資料シート（1）



### 3. 添付資料シート (2)





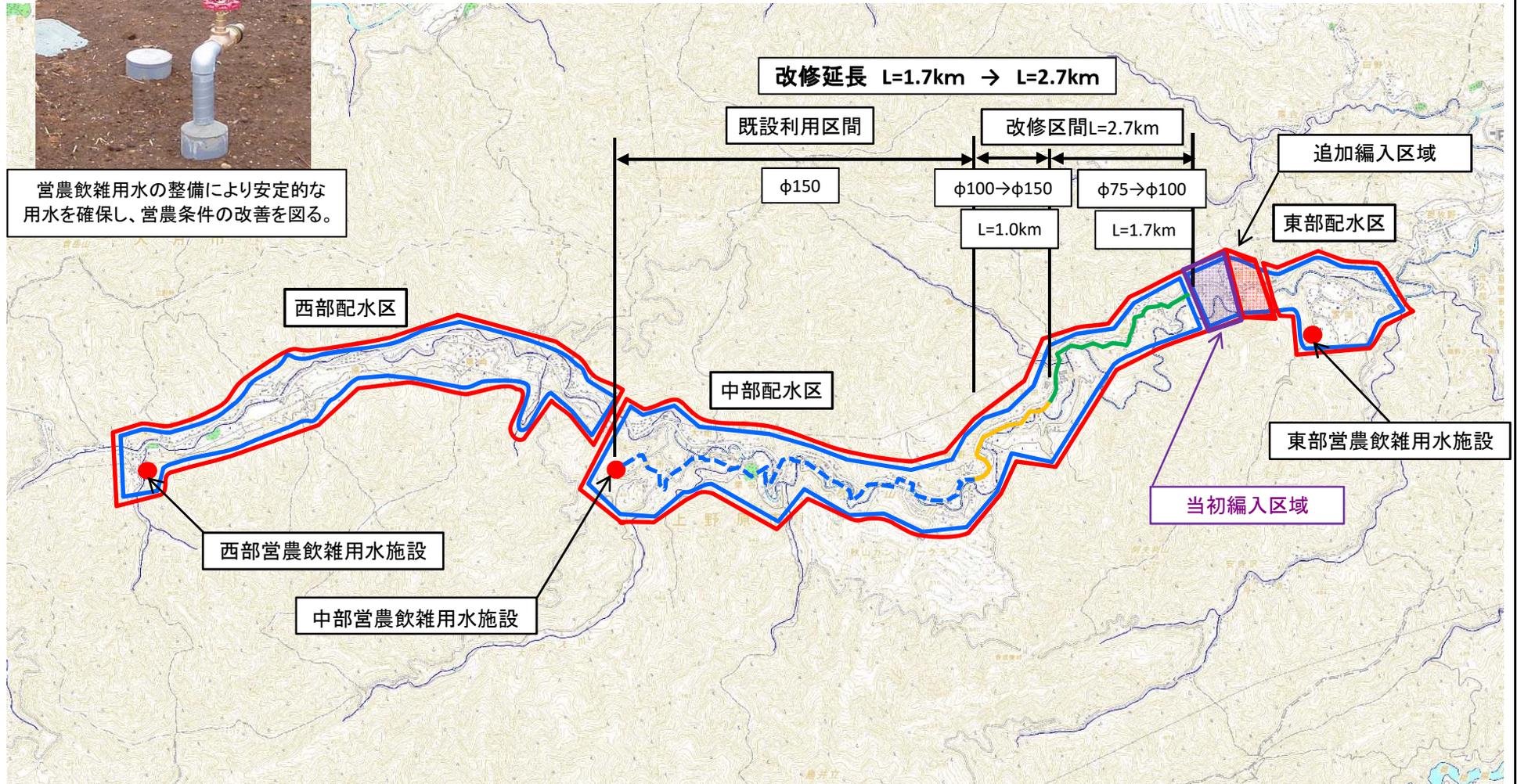


給水栓の整備イメージ



営農飲雑用水の整備により安定的な用水を確保し、営農条件の改善を図る。

## 営農飲雑用水施設配水区域の再編



当初計画において、東部配水区のうち1集落を中部配水区へ編入する計画で管路改修の予定であった。  
 その後、詳細調査を行った結果、東部配水区の水源の水量が需要量に対して不足していることが判明したため、東部配水区からさらに1集落を中部配水区へ編入することとした。  
 この区域の見直しにより、既設利用を予定していた管路では断面不足となり、追加の改修が必要となったことによる改修延長の増。

当初区域 : 青  
 再編後区域 : 赤

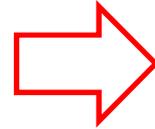
- 凡例
- : 管路改修(当初計画)
  - : 再編による管路改修(変更)
  - - - : 既設管路利用

### 3. 添付資料シート (6)



幅員が狭く、車両のすれ違いができないため通行に支障を来していた。

#### ① 【農道】

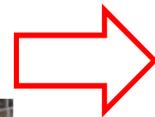


農耕車のすれ違い出来るようになり、通作の安全性が確保されるとともに、農地へのスムーズな乗り入れが可能となり農作業の利便性が大幅に向上している。



老朽化が進み、漏水しているため下流農地への用水供給に支障を来していた。

#### ② 【用排水路】



水路整備により流下能力が高まり、下流農地への用水供給が安定したことで、農作物の品質向上が図られるとともに、維持管理の労力も軽減されている。

#### 4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費（千円）	事業概要	進捗率
H22	172,850	測量設計一式、水路工 L=423m	8.1%
H23	208,200	水路工 L=244m、農道工 L=177m 鳥獣害防止施設 L=6,549m	17.9%
H24	565,000	農道工 L=70m、鳥獣害防止施設 L=2,257m 営農飲雑用水施設一式	44.5%
H25	126,000	水路工 L=150m、農道工 L=298m 鳥獣害防止施設 L=6,818m、営農飲雑用水施設一式	50.4%
H26	218,000	水路工 L=311m、農道工 L=138m 鳥獣害防止施設 L=4,924m	60.7%
H27	90,000	水路工 L=67m、農道工 L=69m 鳥獣害防止施設 L=972m	64.9%
H28	95,000	農道工 L=100m、鳥獣害防止施設 L=208m	69.4%
H29	100,000	営農飲雑用水施設一式	74.1%
H30	290,000	農道工 L=116m、鳥獣害防止施設 L=1,434m 営農飲雑用水施設一式	87.8%
R1	64,950	鳥獣害防止施設 L=1,800m 農道工 L=80m	90.8%
R2	195,000	鳥獣害防止施設 L=2,200m 営農飲雑用水施設配水管路一式	100.0%
合計	2,125,000		